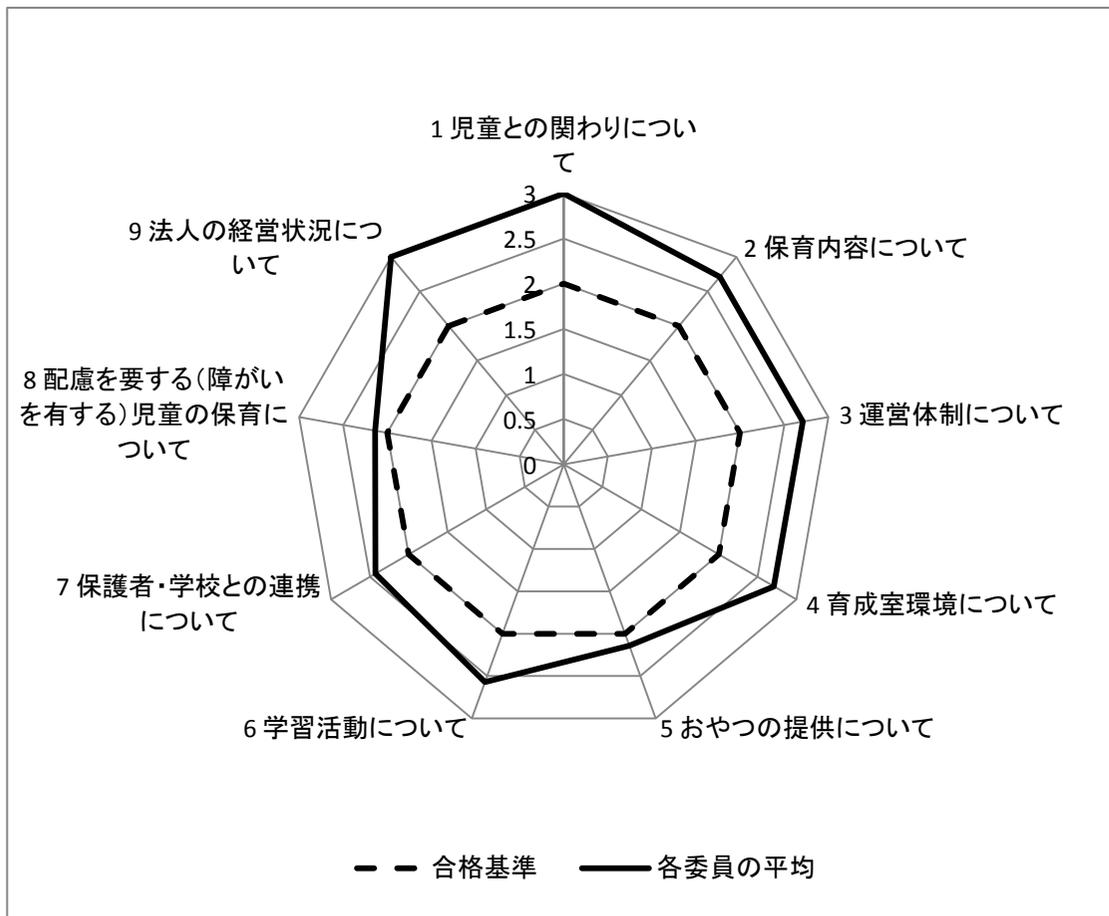
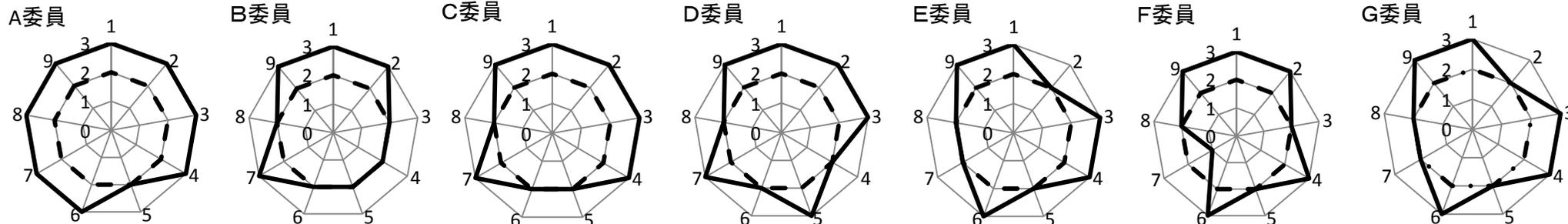


## 吹田市立千里丘北留守家庭児童育成室運営業務委託事業者評価シートの結果



項目	委員・特別委員							平均
	A	B	C	D	E	F	G	
1 児童との関わりについて	3	3	3	3	3	3	3	3
2 保育内容について	3	3	3	3	2	3	2	2.71
3 運営体制について	3	2	3	3	3	2	3	2.71
4 育成室環境について	3	2	3	2	3	3	3	2.71
5 おやつの提供について	2	2	2	3	2	2	2	2.14
6 学習活動について	3	2	2	2	3	3	3	2.57
7 保護者・学校との連携について	3	3	3	3	2	1	2	2.43
8 配慮を要する(障がい を有する)児童の保育に ついて	3	2	2	2	2	2	2	2.14
9 法人の経営状況について	3	3	3	3	3	3	3	3
合計	26	22	24	24	23	22	23	23.4
平均	2.89	2.44	2.67	2.67	2.56	2.44	2.56	2.6

※ 評価点については、0点～3点までの4段階評価



## 【評価項目以外の評価事項】

1 室温管理(在室の人数が多く長時間になる場合など)にも注意すべきである。

2 研修参加等による継続的な専門知識技能の習得

研修等には指導員が参加するように促しているとのことであったが、乳幼児保育とは異なる学童保育の専門的知識や保育方法、また今後入所が予想される発達障害児の対応方法等について、継続的に学習し研修を受ける機会を保障するシステムはやや不十分かと思われる。

3 機能別保育空間の確保

動的活動空間と静的活動空間を意識的に確保するには至っていなかった。今後、児童数が増加することが予想されるなか、場面に応じて空間用途を設定する等、限られた空間で心地よく過ごすための工夫が求められる。また、静養空間の確保も課題である。

4 指導員間の連携

保育開始前に、指導員の打ち合わせ会議の時間が設定されており、指導員が連携して保育にあたる体制ができていることは評価できる。

5 発達の応じた保育の工夫

縦割りグループを日々の活動に位置付けており、高学年児童がリーダー的役割を發揮できる場面をつくっていることは評価できる。

6 適切な規模の子ども集団の確保

学童保育全体の児童数が増加するに伴い、子ども集団を分割して適正な集団規模を確保することが重要になるが、当育成室では2クラスの子どもの単位での生活と担当指導員をきちんと位置づけつつ、自由時間等は行き来自由として柔軟な対応をしており、適切に対応されている。

7 保育士・幼稚園教諭不足が叫ばれる中、午前中は保育園で補助的な役割を担い、午後からは留守家庭児童育成室を担当するという、常勤(正職)体制で雇用するため、募集すれば全国から応募があるとのことで、指導員確保に自信を持たれており安心感があつた。

8 留守家庭児童育成室に対する苦情を、小学校では受けていないこと。

9 直営の育成室と比べて、保護者から連絡帳の毎日記載を要望されたが、連絡帳を記載する時間よりも、子どもと触れ合う時間を大切にしたいという思いを伝え、保護者の理解を得られた。

10 千里丘北小学校長より、現状における問題点は皆無であるとの意見を尊重したい。

## 【その他特記事項】

1 学校長、行政により連携が取れている感じがした。

2 一般的には労働条件が不安定な学童保育指導員であるが、千里丘キンダースクールと同一の法人運営により、フルタイムで働ける学童保育指導員の労働を保障できており、経験豊かな指導員の育成という意味でも、全国のモデルになるのではないかと思われる。

#### 【評価項目以外の評価事項】

- 11 個人懇談をしていただけるのがありがたいです。上の子が他市で学童に入っていました。懇談会があっても個人懇談はなく、千里丘来たに来て驚いたのと1人1人をちゃんと見てもらっていると安心しました。  
延長で迎えに行くと、指導員の取り合いとまでいかずとも、児童がなついている様子がうかがえます。娘はよく指導員にお手紙を渡したりしていますが、まめに返事をもらっており。忙しい中うれしく思っています。  
遠足や外での活動もあり、工夫が感じられます。昨年、娘の友達が少しトラブルで悩んだとき、学校の担任より指導員のほうがしっかり対応してくれたそうです。
- 12 保育室の雰囲気はアットホームであり、児童にとって指導員は、学校の先生とは違う身近な先生(学童のリーダー)として親しみのある存在となっている。  
指導員は、児童との関係を積極的にもち、皆で楽しもうとあそびやイベントなどの活動に取り組んでいる様子が感じられる。「学童」は活気ある楽しい場となっているようだ。  
指導員自身への教育という意味では、適時適切な言葉かけや、児童への指導方法の向上の余地があると感じるので、これからの経験や勉強会等を経て将来に期待している。